

思いをとどける
未来をつくる！



Center of Japan
日本のと真ん中
信州辰野町

たつのまち 議会だより

No.98



朝顔とそば(川島)
いいまちたつの知らせ隊

特集 辰野町議会新体制が始動 P02 タウンミーティング開催 P07 町へ提言書提出 P15

臨時会・定例会報告	P04
委員会レポート	P06
一般質問	P08
町民の声	P16



辰野町議会
ホームページ



辰野町議会
Facebook



辰野町議会
YouTube

辰野町議会新体制が始動

5月1日に開催された臨時会において正副議長選挙が行われ、議長に舟橋秀仁議員、副議長に津谷彰議員が選出されました。常任委員会ほか各委員会の正副委員長も決まり、新しい体制でスタートしました。



議長



議長就任あいさつ 舟橋 秀仁

任期前半の2年間には、町民や若者とのタウンミーティングを通し、町民の意見を数多く伺い、行政に届けて来ました。また、中学生議会や辰高生徒との懇談では次世代を担う若者の思いを聞いてきました。さらに、定例会のYouTube中継やSNSを通じて議会の情報発信にも力を入れてきました。後半はこれらに加え、女性の皆さんとの意見交換や議員のなり手不足を解消するための施策も実施したいと考えています。これからも町民に寄り添い、町の発展に寄与する議会となるべく、議員一同精一杯活動して参ります。



副議長就任あいさつ 津谷 彰

前期2年間は、主に「町民と議員のタウンミーティング」の座長として活動してまいりました。全議員が広く町民の声をお聞きするなかで、各区の課題や要望などを共有し、常任委員会や一般質問などにより、皆さんからいただいた声を町へ届ける貴重な場となりました。後半2年間も、副議長として職務を全うするなかで、議員にとっても町民にとっても開かれた議会の改革に精進してまいる所存であります。よろしくお願い申し上げます。



副議長

委員長



議会運営委員会は、議会をスムーズに運営するために話し合いを行う委員会です。定例会・臨時会の日程や進行、また議会に関するルールの話し合いを行います。町行政と協力して議会の円滑なすすめ方を決めています。町民の皆様にとって身近な議会となりますよう今後も努めてまいります。（樋口委員長）

議会運営委員会

委員長	樋口 博美
副委員長	古村 幹夫
委員	高木 智香
	向山 光

委員長



議会広報編集委員会は、議会だよりの編集・発行を通じて住民の関心を高め、広く議会活動への理解促進を図ることを目的としています。町民の皆様が、議会や町政に関心を持っていただけるよう「読みやすく、わかりやすく」を基本に、より親しみやすい紙面づくりを心掛けてまいります。（栗林委員長）

議会広報編集委員会

委員長	栗林 俊彦
副委員長	高木 智香
委員	林 政美
	牛丸 圭也
	古村 幹夫
	本田 光陽

総務産業常任委員会

委員長あいさつ



委員長

議席12番
小林 テル子

総務、財政、防災、まちづくり、農林、商工、観光、建設、上下水道、道路交通など多岐にわたる課題を担当する委員会として、調査・研究・検討していきます。現在そして将来に向けての課題を察知し、「検証、改善、提言」ができるよう町行政と連携しながら、町民の皆様のご意見を伺い、「住み続けたいまち」の実現を目指し進めていきます。

副委員長



議席2番
林 政美



議席8番
高木 智香



議席9番
小澤 睦美



議席10番
本田 光陽



議席11番
向山 光



議席14番
舟橋 秀仁

【主な調査研究】

- (1) 産業振興に関する調査研究
- (2) 道路問題に関する調査研究
- (3) まちづくり・財政に関する調査研究
- (4) 防災減災に関する調査研究
- (5) 第6次総合計画後期基本計画に関する調査研究
- (6) その他、総務産業常任委員会が主管する分野についての調査研究



福祉教育常任委員会

委員長あいさつ



委員長

議席6番
松澤 千代子

委員全員は検証したいことをそれぞれ持っていますが、先日、全員で調査研究をしていく方向性を検討しました。福祉と教育を両輪に据え7名の知恵と行動力で、町民の皆様にとって少しでも良い方向へ進むことができるよう、チームワークで努力してまいります。どうぞ、皆様のお声をお聞かせくださるようお願い致します。

副委員長



議席3番
牛丸 圭也



議席1番
樋口 博美



議席4番
吉澤 光雄



議席5番
古村 幹夫



議席7番
栗林 俊彦



議席13番
津谷 彰

【主な調査研究】

- (1) 町内の教育行政(学校、社会)や保育行政、及び教育・保育に関する調査研究
- (2) 町立辰野病院の経営についての調査研究
- (3) 地域福祉向上を目指した地域包括ケアシステムの構築、地域福祉、障がい者福祉に関する調査研究
- (4) その他、福祉教育常任委員会が主管する分野についての調査研究



5月臨時会 6月定例会

全議案
可決・承認・
同意



第3回 臨時会 5月1日

1 議案

- 損害賠償の決定及び和解について
- 議会役員改選
- 議会議長、副議長、常任委員等の選出

第4回 臨時会 5月9日

7 議案

- 財産の取得(消防ポンプ自動車)
1台(3,080万円)
辰野町消防団第4分団に配備
- 調停を成立させることについて
- 監査委員の選任について

Pickup! 財産の取得について

- 避難所用折り畳みパーテーション 951基(1,234万円)
 - 避難所用折り畳みベッド 949台(1,013万円)
 - 災害用ポータブル電源 95台(2,111万円)
 - 災害用組立型自動ラップ式トイレ 95台(2,414万円)
- ※新しい地方経済・生活環境創生交付金による

第5回 定例会 5月26日～6月16日

17議案

請願・陳情、議員提出議案他

令和6年度一般会計・特別会計

- 一般会計補正予算(第17号)
▷事業費の確定などによる予算額の増減措置
補正額 6億4,071万円 減額
- 特別会計補正予算
 - ・国民健康保険特別会計補正予算(第4号)
補正額 3億2,938万円 減額
 - ・国民健康保険診療所特別会計補正予算(第1号)
補正額 169万円 減額
 - ・後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)
補正額 644万円 減額
 - ・辰野病院事業会計補正予算(第4号)
補正額 901万円 減額
 - ・地域情報告知システム特別会計補正予算(第1号)
補正額 164万円 増額
 - ・介護保険特別会計補正予算(第3号)
補正額 1億3,350万円 減額

令和7年度一般会計

- 一般会計補正予算(第1号)
▷小野介護予防センターホール空調設備改修、
第一分団屯所トイレ改修 ほか
補正額 1億8,554万円 増額
- 一般会計補正予算(第2号)
▷町内出身で大学等在学中の学生を対象とした
デジタルギフト配布業務委託料 ほか
補正額 4,532万円 増額

条例審査

- 条例審査議案
 - ・税条例の一部を改正する条例について
 - ・都市計画税条例の一部を改正する条例について
 - ・国民健康保険税条例の一部を改正する条例について
 - ・町営住宅管理条例の一部を改正する条例について
 - ・水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について

その他

- ・令和7年度通学路緊急対策交通安全事業町道8号線工事請負契約について
- ・財産の取得について
- ・監査委員の選任について

請願・陳情審査

消費税率5%以下への引き下げを求める陳情書

提出者：上伊那民主商工会 会長 鈴木正巳 氏 意見書：提出なし

本会議／不採択

賛成 3 吉澤、高木、向山

反対 10 樋口、林、牛丸、古村、松澤、栗林、小澤、本田、小林、津谷

陳情
第5号

【不採択に反対（吉澤）】国民の7割が何らかの形で消費税減税を求めている。消費税は弱者により負担が重い悪税。消費税減税は物価高、景気回復に最も効果が高い。消費税は大企業・大金持ち減税の穴埋めに使われてきた。大企業・大金持ち優遇の税のゆがみを正せば、財源は十分ある。

【不採択に賛成（林）】消費税の税収は、社会保障費の財源として重要な役割を果たしている。高齢化の進む日本では、年金や医療、介護等の財源確保のため、消費税による安定した税収確保と社会保障の財源維持が必要。消費税減税は、慎重に検討される課題であり、安易な減税は望ましくない。

請願
第6号

「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書

提出者：辰野町公立学校教職員組合 執行委員長：向山 悌 氏 紹介議員：牛丸圭也

本会議／採 択

全会一致

意見書：提出あり

陳情
第7号

「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める働きかけの陳情について

提出者：辰野町公立学校教職員組合 執行委員長：向山 悌 氏

本会議／継続審査

全会一致

議員提出議案の審議

発議
第1号

「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書の提出について

〔提出先〕衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、文部科学大臣

審 議／可 決

全会一致

発議
第2号

米不足解消・価格安定への対策強化を求める意見書の提出について

◇米不足・価格安定への対策強化のために、政府が米の供給量の確保と消費者価格の安定に責任を持ち、農家への所得補償・価格保障を充実させることを求めるもの。

審 議／否 決

賛成 3 吉澤、高木、向山

反対 10 樋口、林、牛丸、古村、松澤、栗林、小澤、本田、小林、津谷

【原案に反対（津谷）】政府は現在、消費者、生産者の双方の視点から共存でき、持続可能になる取り組みを指し示し動いている。今、早急に、この時点で何かを固めるのではなく、持続可能性を追求することを重点政策課題として策を講じているため、政府の動きを注視しつつも静観する。

【原案に賛成（向山）】コメ不足の根本的な要因は国が進めた減反政策。コメは日本の主食であり、きちんと確保することは政治の最重要事項だ。国が改革を進めると言っても、何十年もの農政に対する失策を見ると安心できない。国民のコメに対する思いを込めた意見書を採択すべき。

報告事項

- ・令和6年度辰野町一般会計繰越明許費繰越計算書
- ・令和6年度辰野町下水道事業会計予算繰越計算書
- ・令和6年度辰野町土地開発公社事業決算書及び令和7年度辰野町土地開発公社事業計画書の提出

- ・令和6年度辰野町上水道事業会計予算繰越計算書
- ・令和6年度町立辰野病院事業会計予算繰越計算書
- ・専決処分の報告（損害賠償の責を負う物損事故）

総務産業常任委員会

条例等審査

辰野町営住宅管理条例の一部を改正する条例について

趣旨 老朽化し入居不可な町営住宅の除去及び法令等の引用関係を整理するため、辰野町営住宅管理条例の一部を改正するもの。

辰野町水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について

趣旨 水道事業の設置等に関する条例の一部を改正するもので、現在使用している水源が十分な水量が得られなくなり新たな水源を作っていくための変更。

※採決の結果、条例2件は全員一致で可決すべきものと決しました。

陳情審査

陳情第5号 消費税率5%以下へ引き下げを求める陳情書

趣旨 消費税は「社会保障財源」とされてきたが、大企業・富裕層減税の穴埋めにされてきたのが実態。世論調査では、国民の68%が物価高騰対策として消費税減税を求めている。物価高騰を抑制し、すべての国

民に平等に恩恵が届き、事業者の事務負担も軽減する、消費税率の5%以下への実施を強く求めるもの。

○陳情に賛成の意見

- ・物価高騰は低所得者への影響が大きいため、消費税を下げることで負担を軽減できるのでは。
- ・物価高の中で、消費税が家計や事業経営を圧迫しているのは事実。
- ・消費税廃止は厳しいが、5%以下に下げること個人消費を上げることができるのでは。

●陳情に反対の意見

- ・消費税は社会保障費として使われている。10兆円もあり、引き下げにより収入減となれば、公共投資に使えなくなり、社会に与える影響は大きい。
- ・消費税の見直しは大事であるが、5%以下と明記した提案について同意できない。

※討議の上、採決の結果、賛成と反対が3対3の同数となり、辰野町議会委員会条例第16条に基づき、委員長裁決により不採択すべきものと決しました。

福祉教育常任委員会

請願・陳情審査

請願第6号 「さらなる少人数学推進と教員増のための教育予算確保」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書

○請願に賛成の意見

- ・地域の財政力によって子どもたちの教育が左右されてはならないし、地方財政の負担軽減のためにも国の措置を求める。
- ・少人数学級にすることで子ども一人一人が自分の思いを伝えやすくなる上、いじめの早期発見につながる。

※討議の上、採決の結果、全員一致で採択すべきと決し、意見書提出については賛成4反対2で提出することに決定しました。

陳情第7号 「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める働きかけの陳情について

趣旨 国の教育課程基準にもとづき、学校が定めた教育課程の時数と内容が過多になっていて、子どもや教職員に過大な負担がかかっているため改善したい。

○陳情に賛成の意見

- ・学習内容が過多である。学校は塾と違い楽しめることも必要だ。
- ・学習指導要領の内容精選は大事なこと。

●陳情に反対の意見

- ・国際的な競争力を考えると学力が落ちるのではないかと不安。
- ・学習内容が減る分、塾通いを考慮すれば経済格差が問題になる。

※追加調査が必要と判断し、継続審査とすることに賛成5、採択すべきとして継続審査には反対1、で継続審査とすることに決しました。

【用語説明】

カリキュラム・オーバーロード

「学校における教育・学習内容が質・量ともに過剰・過密となることで、児童生徒や教員に過度な物理的・精神的な負担がかかっている状態」を指します。



町民と議員の タウンミーティング 開催しました！

沢底区

開催日時 5月19日(月) 19:30
参加人数 区民33人 議員14人

はじめに地元区長から、高齢化率が43.9%に達する区の現状について説明があり、その後、参加者の皆さんから様々な意見をいただきました。

地域の未来を担う組織のあり方

区の役員や消防団、赤十字奉仕団の「担い手不足」は、多くの参加者から出された切実な課題です。「若い世代が役員を敬遠し、特定の世代に負担が集中している」「働きながらの活動が難しい」といった声が上がりました。

議会からは、役員の公募制導入や、講習会の動画配信化など、時代に合わせた柔軟な組織運営を検討してはどうかと提案。また、消防団のマンパワー不足に対しては、災害時に住民が初期消火に参加できるよう、地域ぐるみでの防災体制を強化する必要性が示されました。

区長感想 今後も続けていただき、町や区が良くなるように、みんなで前向きな意見を出し合えたらと思います。区長としてもみなさんの意見が聴けて良かったです。



会場：沢底区公民館

暮らしの課題、対策を協議

「松くい虫の被害が広がっており対策が急務だ」「回覧物が多く配布の負担が大きい」など、生活に密着した課題も数多く出されました。議会からは、松くい虫被害の早期発見・通報への協力を呼びかけると共に、行政の対応状況を説明。また、配布物のデジタル化や、行政への要望を議員が直接お聞きし、迅速な対応につなげる仕組みなども提案されました。

平出区

開催日時 5月23日(金) 19:00
参加人数 区民18人 議員12人

少子高齢化に対する町のビジョン

少子化に対する学校のあり方への町の方針や、区役員のなり手不足と高齢化への対応についての質問に、議会からは、町がビジョンを示すことの必要性や、他区との情報交換で改善策が見つかる可能性を示唆。学校のあり方については、検討委員会が報告を提出し来年町に答申することが示されました。

移住定住対策について協議

空き家に対する対応を求める声や、移住定住誘致にリモートワーク等の環境を整えてはとの意見に、議会からは、空き家に対する対応や、移住者に対して、地域内でのコミュニケーションの大切さについて提案。

区長感想 多岐な問題の意見交換ができ、議員の「人となり」が見えてきた。区民の問題提起を受け、町政に働きかけることで、より暮らしやすい町になるよう期待します。有意義なミーティングでした。



会場：平出コミュニティセンター

有機農業推進の町宣言について

販路開拓が難しい。地産地消より地消地産の発想で学校給食への供給をとの提案に、議会からは、町民に浸透していないので取り組みの周知が必要。情報提供しながら進め方の検討も必要と回答しました。

その他に、辰野病院の訪問診療科充実と、医師不足による困難な自宅での看取りについて等の質問が出されました。

詳細は、町HP内の辰野町議会のページに掲載いたします。次回開催区が決定次第、新聞などで告知いたします。



辰野ほたる祭りと ピッカリ踊りに議会が参加



お祭り開会日より議員は当番制ではたる祭りの警備に参加しました。



6月7日開催日、駅前本町通りの歩行者天国を埋め尽くすお客様の楽しむ顔のお手伝い。ほたる祭りのハッピーを着て、道案内やごみの片付け等の活動をしました。



そして、町議会連として今年も「ピッカリ踊り」に参加しました。

雨模様の6月14日（土）、駅前本町通りの歩行者天国、開始時間を待つ色とりどりのハッピーに身を包んだ22連、約1000人の踊り手。消防団の意気盛んなラッパや太鼓の演奏が雨空に響きわたり、ピッカリ踊りが始まりました。

うちわがボロボロになりながらも1部と2部に参加。雨のおかげで、かえて同じ時間を共有している意識が強まり、すれ違い様の声掛けや仕草で踊りを楽しむ一体感を味わいました。

町を盛り上げるお祭りに今後も参加・協力いたします。



小澤 睦美
議員



子どもの成長を保障
するための子どもの
権利条例策定の意味は

課長

子ども子育て会議で
意見を聞いて研究する

横川の蛇石周辺整備を

問 横川の蛇石周辺には、キャンプ場やヒキガエルの成育場もある。周辺の愛称を考えたかどうか。

町長 国有林の中であり、国と相談が必要。町としても色々な方面から意見を聞いてみたい。

問 豪雨災害から4年近く経過するが、三級の滝下の駐車場までの道は開通したか。

課長 工期の延長等があり、現在も工事中である。

問 木地師の墓等周辺の観光資源を活用するため、蛇石の入り口のゲートを上流に移動できないか。

課長 移動の相談は、南信森林管理署で可能。

辰野町の中等・高等教育機関の存続を

問 辰野高等学校は将来的には、普通科のみの高校となってしまう可能性がある。存続に向け、町としてどのような取り組みを行うか。

課長 今後も地域の行事参加などを通じ、町も高校存続のために連携を深めた取り組みを行う。

問 信州豊南短期大学は、存続のため地域に密着した運営を考えている。町はどのような取り組みができるか。

課長 担当課を総務課とし、大学側と情報を共有するなかで、存続のための地域連携等に取り組む。



信州豊南短期大学

渋滞解消に資する道路網の現状は

問 下田踏切拡幅工事による渋滞緩和は進んだか。

課長 拡幅によりスムーズに通行でき渋滞が緩和された。国道までの拡幅工事が予定されており、さらに渋滞解消につながる。

問 町道12号線の改良事業の進捗状況は。

課長 地域の合意形成に至っていない。原交差点の改良工事と併せ伊那建設事務所に要望していく。

問 辰野バイパス事業の進捗状況は。

課長 令和5年8月に辰野バイパス期成同盟会を設立し、その後、勉強会を通じ、辰野バイパスに対する共通認識を深めていただいた。今後も事業実現に向けて、同盟会と一緒に取組んで行く。

第6次総合計画 前期計画の 取り組み状況は

町長

住み続けたい町とし
その実現を目指した



林 はやし
政 まさみ
美 議員

第6次総合計画前期計画での重点テーマの 総括と後期計画策定のポイントは

問 地域包括ケアシステムの構築と拡充は。

町長 関係機関と連携し、一体的なサービスが提供されるよう対応している。今後、生活支援サービスの拡充や連携強化、役割分担の明確化を行っていく。

問 町民と行政が一体となった道路の改良は。

課長 辰野町道路網計画に沿って住民合意により、国・県と協力して道路整備を進めていく。

問 前期の総括から後期計画策定のポイントは。

課長 前期を振り返り、問題・課題を整理し、後期計画の策定に取り組む。

持続可能な辰野町の将来展望は

問 まちづくりの基本的な考えは。

課長 人口減少に対応したコンパクトで住みやすいまちづくりを推進する。

問 財源確保のための施策をどう考えているか。

課長 歳入はふるさと納税やクラウドファンディング、歳出は予算編成への枠配分方式の導入などで持続可能な財政運営を目指す。

持続可能な農業と農地の維持施策は

課長 農地の適正利用化を行って住民や農業者間で情報共有を明確にする。農地情報を周知して新規就農者や認定農業者などに農地をつなぐことを推進する。

町の主要施設の利用状況と課題は

問 辰野町地域活性化センターの利用状況は。

課長 信州フューチャーセンターがある。各種イベントで集客を図っている。

問 地域活性化拠点施設、設置の考えはないか。

課長 必要と思うが今のところ設置の考えはない。



地域活性化施設
信州フューチャーセンター



信州フューチャーセンター室内

辰野スマートインター チェンジ(IC)の 構想はどうなった

町長

必要性や地域の合意形成に
ついて研究する必要がある



小林 てるこ
議員

問 令和4年の3月議会で、今は町内道路改良を優先するが、スマートICの必要性を否定するものではないと答弁している。設置の経済効果は大きく、令和7年現在、設置を求める町民の声が届いている。3期目立候補の公約に入れる考えは。

町長 諏訪湖スマートICの開通による交通の流れの変化などを見て総合的に判断したい。

豊南短大外国人留学生の受入れへの支援は

問 上伊那で最も人口減少が顕著な町となっている辰野町だが、豊南短大での外国人留学生の入学人数は。

課長 16人の留学生が入学と把握している。

問 留学生のバイトにも困難があると聞いた。留学生も含む学生が住み続けたい辰野町になるための支援体制は。

課長 町から大学へ毎年150万円の補助をしている。就職ガイダンスには昨年から関わっており、昨年町内への就職者は8名。

要望 地元企業を巻き込んだ就職インターンシップ制度を町が関わって企画実施してほしい。

課長 人的な余裕がなく受け入れが難しい企業もあるが、企業を募り企業見学や職場体験ができるよう短大とともに検討し、近く実現させたい。



創立42年 信州豊南短期大学

国道153号新町区内歩道の危険性と安全確保は

問 5月、区役員と建設水道課の立ち合いの下、国道153号の状態を確認。国道の東側はほぼ歩道がなく、西側中間あたり300mが180cmの歩道がある他は100cm以下の歩道で歩き難い危険と確認できたか。

課長 現地の危険箇所を把握した。今後も区の皆さんと共に状況確認し、県に要望していく。

松枯れの進行状況と具体的な対策は

課長 新町諏訪神社周辺の樹種転換は実施した。松くい虫被害対策実施計画を進めているところ。

向山 光
むかいやま ひかる
議員



職員倫理
モチベーションの
一層の向上は

町長

階層別研修によって
意識の向上を図っている

課長 公正さを保つことが重要。組織全体の信用失墜を招かないように徹底を図りたい。

意見 ハラスメント防止宣言・制度を実効性あるものにするために、検証を。社会の変化に伴い価値観、規範も変わる、しっかり対応を。

区等の地域の自治組織と町行政との関係は

課長 町と両輪となって活性化に寄与してもらっている。区長会などで担い手不足などの課題について情報共有してもらっている。共通課題から参考事例になるものは紹介していく。

意見 地域組織は町の行政にとって不可欠なもの、表裏一体の組織と考え、危機感をもって対応を。

中学校の部活動地域移行の現状と課題は

課長 地域の子供は地域で育てる、という方向で「地域展開」を進める。これまで中学校に部活動がなかったバドミントンに続き、今年は陸上長距離について実証事業をし、計画を策定する。文化部も含め、休日から平日を含める地域展開にする。活動費、会場費、謝金、多人数競技の広域連携等の課題があるが、まずは、受け入れ体制を整えることを主眼にする。

問 指導者によるハラスメント等への対応は。

課長 地域展開の方向が定まってから検討する。



地域へ展開される中学校の部活動
(提供：リュシオスポーツクラブ)

地域林政アドバイザーの役割は

課長 町の林務行政全体において、森林資源の有効活用、持続可能な森林経営、森林環境譲与税の有効活用などを業務とする。豊富な知識、経験を有する専門人材による町の森林行政の推進、職員の習熟度の向上を図る。

意見 町の森林は広く地形は複雑。業務の範囲が広く、アドバイザーを補佐することが必要。業務継続していただくための態勢を。

古村 幹夫
ふるむら みきお
議員



令和6年度の
赤十字活動資金の
実績額はどのくらいか

町長

町に寄せられた
金額は434,900円

活動資金の集め方については区に依頼すること一つの方法。町が区に依頼している募金はどれくらいあるか

課長 町が区に直接依頼している募金は「緑の募金」。「赤い羽根共同募金」は社会福祉協議会から区長会を通じて依頼されている。町からという形ではこれら2件と認識している。

問 区の負担を増やしすぎないようにしながら、年に一度、複数の募金をまとめて封筒でお願いするような仕組みは作れないか。

課長 募金には実施時期が定められているものがあり、集約は難しい。しかし住民や区の役員に負担をかけず、強制的な印象を与えない簡便な方法については研究していきたい。

地元の高校・短期大学との連携のための窓口を
設けられないか

課長 問い合わせ先がわかりにくいものについては、若者支援を担当しているまちづくり政策課まちづくり2係を窓口とし、そこから担当の課へ振り分けを行いたいと考えている。

問 より広く学生の地域貢献活動を認証する新しい制度を創設してはどうか。

課長 学校側からの推薦などを基に、活動の基準などを明確化するための意見交換を行えば、制度の実現は可能。今後、学校側とどのような話し合いができるか検討する。

消防団員だけでなく地域の住民も使いやすい
消防ポンプ配備が必要。今後の計画は

課長 配備ポンプが旧式化していることは認識しており、国からも計画的な更新について通知が来ている。有利な補助金なども研究しながら更新を考えていく。



適切な配備計画を

小中学校の体育館音響設備の老朽化について、
現状の把握と改善策に対する町の考えは

課長 機器の老朽化が進んでいることは認識している。まずは各学校の状況を聞き、できるところから対応していきたい。

第2期子ども・子育て支援事業計画の成果は

町長

子育て応援フェスと
ぴっかりハウス竣工等



栗林 俊彦
議員

少子化対策の取り組み・子育て支援事業は

問 第3期子ども・子育て支援事業計画の方針は。

町長 辰野町こども計画への統合を見据えた策定方針で事業展開を13事業から20事業に充実。こども家庭センターは、体制強化を図り、加えてこども誰でも通園制度の創設を予定。

問 えるぼし認定は女性活躍、くるみん認定は子育て支援を重視、ユースエール認定は若者の採用・育成に積極的な企業を認定する制度。町内企業に各種認定取得をサポートし、働きやすい職場、子育て支援、UIターンを促進する考えは。

課長 認定制度が認知されてない状況もある。企業のイメージアップにつながることをPRする。



問 辰野ほっこりナビ、パパ手帳、子育て家庭優待パスポートなどの情報発信と利用促進は。

課長 子育てに関する情報については、辰野ほっこりナビや保育園と保護者間の連携アプリコドモンなどを活用して配信を行い、周知に努める。

辰野町の都市計画、快適で魅力ある土地利用、暮らしやすい住環境をつくる計画の実施は

課長 将来にわたるインフラの維持修繕、街路事業、歩道整備等、今後の人口減少・少子高齢化に向けた時代に合った都市計画に取り組む。

問 南部地区の国道153号沿いと羽場駅を中心とした地域を「新市街地エリア」として都市計画事業や土地区画整理事業を実現する可能性は。

課長 現在、南部地区について具体的に地区計画事業を実施することは想定にないが、地理的に恵まれた場所のため、今後の国土利用計画を踏まえ可能性を探っていきたい。

公共施設に木質ペレットボイラーを導入し自給率向上と二酸化炭素の排出量削減を目指しては

課長 地球温暖化防止計画の中に、ペレットボイラーなど木質バイオマスを使った再生可能エネルギーの導入も含まれているため、機種など研究しながら町の施設に設置する計画で進めている。

その他 マイボトルの利用促進は。他2件

地域自治組織のあり方を見直しては

町長

区長会へ提案
報告をしていきたい



本田 光陽
議員

問 多くの区で役員の成り手不足の課題が挙げられている。区長会の中において町主導による区の再編を求める声があったか。

課長 町主導で区のあり方再編をもとめる声はない。行事や役員負担の軽減を求める声が多い。

問 町の業務を区が担っているという側面もある。区への提案を町主導で行う考えはあるか。

課長 町側からの主導は考えていない。

観光デジタルマップ事業の現状について

問 2024年11月にマップを公開。2025年6月マップは公開を停止されている。約半年しか公開されなかったが、現状は。

課長 (一社) 地域活性化センターからの助成金を受け、移住定住促進事業として令和6年度に実施。すでに事業は完了し、公開はしていない。

問 経済的にも、職員の労働時間という面においても一定の投資はされているため、立ち上げにあたっては初年度以降の予算のことも念頭に進めてこれたと思うが、現在マップが公開停止に至ったのはどのような経緯があったか。

課長 ランニング費用は自走していけるスキームがあるものだと考えていた。予算化の要望は受けていないため、令和7年度の予算化はしていない。

問 町として、この事業を単年度の取り組みに終わらせるのか。今後の方向性は。

課長 デジタルマップを利用していく考えはない。パンフレットやホームページを活用する。

若者の居場所づくりに向けた拠点整備の現状は

問 宮木駅周辺での学生のための場作りは。

課長 中高生や保護者から要望をお聞きしている。既存の民間施設や地域のコミュニティスペースの活用などを検討している。

問 地域内外の人材や団体との連携・協働の可能性については。

課長 行政だけでは限界があると感じている。若者が集える場作りが得意な個人や団体がおられたら町の方に紹介いただき、ぜひ一緒になって連携をしていきたい。



吉澤 光雄
よしざわ みつお
議員



備蓄米が町内に行き届くよう 政府等に要請は

町長

上伊那で連携して
要請する機会あれば

問 米騒動の原因と対策責任は政府にあるが、町の取組み強化も必要。たつの営農支援と直売所の検討は。



田植え

課長 たつの営農に毎年運営負担金の支出に加え、コンバイン等の導入に補助をしている。直売所は町内に9か所あり、まずはこの活用を図る。

問 町長自ら農業の現場にもっと足を運んでは。

課長 年間50以上の事業所を訪問し、農業経営者も5件ほど訪問した。これを継続・強化したい。

熊の出没対策は

問 出没期前に、学校含め関係者が一緒に現場を見て対策を協議する取り組みが必要では。

課長 昨年は6月と9月に地元区や県などと出没箇所を見た。今年も現場を確認し、連携を図る。

問 熊、有害鳥獣への対策を強めるため、国からお金が出る町独自の補助制度をつくる検討は。

課長 町有害鳥獣対策協議会に諮っていきたい。

ボランティアセンターの活性化は

問 これまでのボラセンショップは利用者が多く、役割を果たしてきた。運営方法を変えた理由は。

課長 購入者への商品説明や衛生管理などの課題が生じたため、運営方法を変えた。

問 出店者、利用者が大きく減っているが、賑わい、生きがいを取り戻す取り組みは。

課長 関係者の意見を聞きながら、集いと憩いの場としてより良い運営をお願いしていきたい。

小学校統廃合の検討は

問 検討されている統合の時期、理由は。

教育長 令和10年度代の出来るだけ早い時期を目指している。子どもの学びのためで、財政上の理由ではない。学校の大規模改修予定はない。

問 まず子どもや保護者の声を尊重し、検討を。

教育長 方向性を出した上で意見を聞く予定。

松澤 千代子
まつざわ ちよこ
議員



高齢者の見守りの現状は

町長

毎月1回の民生委員の訪問は、
独居者と要望のある方のみ

問 高齢者の二人暮らしの家庭への見守り訪問と80歳以上の節目訪問はできないか。

課長 要望や情報が入った場合は可能である。

問 ほたるネット終了後の緊急通報装置等での見守りは。

課長 昨年のアンケート調査で146名が緊急通報装置の必要性を訴えている。操作方法やサービス内容、費用面の負担が少ないこと等を検討中だが、できるだけ早く決定して広報していく。

問 スマートフォン講座の進捗状況と周知は。

課長 令和5・6年度は総務省のデジタル活用支援推進事業で83名が受講した。出前講座やほたるチャンネルの講座放映も行ってきた。本年度の予定はないが、町民が生活の中でデジタル技術を広く受けられるよう環境の整備・支援を充実させ、誰ひとり取り残されないデジタル社会の充実を進めていく。

問 ふれ愛サロンのメニューの中に組み込むことは可能か。

課長 ふれ愛サロンを利用するのは効果的なこと。保健福祉課と相談していく。



ふれ愛サロン 防災勉強会

婚活事業については

問 現状と成果は。

課長 県のマッチングシステムへの登録や相談事業を行っているが、最近は若者の結婚への意識が変化している。

問 今後の対策は。

課長 以前の、条件ありきで進めるのではなく、メタバース空間のアバターで参加し、自由に自己アピールができるものを考えている。

交通安全のため小学生のカバンや持ち物の減量を

教育長 平成30年より、成長期の子どもの身体発達に障害が出るのではと考え、持ち物の減量化を進めてきた。以前よりだいぶ軽くなっているはずだが、水筒については家庭に任せても良いと思っている。

地元食材の給食への活用を今後も続けていく考えは

町長

今後も生産者の協力を得て続けていきたい



高木 智香
議員

問 今年度から生産者が個々で学校等に食材を配送することになり負担が増している。町が配送に協力する考えは。



課長 町に協力してほしいと生産者から要望があった。当面は生産者に配送していただくが、町としても検討する。

被爆地広島への子ども使節団の派遣は

問 まずは職員が平和記念式典に参加できないか。

教育長 今年度は職員が満蒙記念館を訪問して、平和について考える機会にしたいと考えている。平和記念式典に参加することは考えていない。

問 昨年からは平和教育の一環として子どもの派遣を実施している箕輪町教育長から話を聞く考えは。

教育長 箕輪町の報告集を拝見し、箕輪町教育長とも話した。来年度実施について色々検討するが、町内でも戦争の悲惨さを学ぶ機会はあると考える。

学用品や子育て用品のリユースとしては

問 学校の空き教室を利用して学用品のリユースができないか。

課長 中学校では制服やカバン等、東小でも作品ケース等のリユースを行っている。学用品のリユースが実施可能か校長会で提案する。

問 子育て応援フェスなどで、子育て（ベビー）用品のリユース会ができないか。

課長 リユース品の状態の見極めや保管について課題はあるが、イベント等で実施できると考える。今後対応を検討する。

町内に高齢者等が休めるベンチを設置しては

問 私有地にベンチの設置ができる人を募っては。

課長 私有地への過度な立ち入りや長時間の居座り、防犯の観点から、私有地への設置は控えるべきと考える。今あるベンチの利用を向上させていけるように周知する。

問 学校やイベントで間伐材を使ったベンチづくりをし、森林の役割を学ぶ機会を設けては。

課長 森林教育は重要。ベンチづくりは難しいが、木工体験や間伐体験などを実施したいと考える。

デジタル回覧板運用の検討は

町長

全ての情報をデジタル化するのは難しい



牛丸 圭也
議員

各世帯へのタブレット配布の検討は

課長 経費等の理由から検討していない。情報配信は既存のサイトやLINE等で補っていく。情報弱者の防災情報取得については検討を進めている。

災害時の井戸活用は

問 水質検査や手押しポンプ設置への助成は。

課長 水道との兼ね合いを考慮し、災害用井戸の位置付けを検討した上で補助金を考えたい。



松本市登録の災害協力井戸

問 荒神山ウォーターパーク跡地利用計画に災害用井戸を加える考えは。

課長 プール跡地付近は掘削深度が深くなる可能性があり井戸の設置は難しい。

問 災害時の井戸利用をどう考えているか。

課長 支え合いマップへの災害用井戸の記載について方向性を研究している。

町として注力している移住施策は

課長 空き家バンク制度の充実や、町移住定住促進奨励金の交付をしている。短期移住体験施設の利用者が空き家を購入して移住したケースもある。

問 移住者に対し、辰野町を知ったきっかけや移住を決意した理由等のヒアリング調査を実施したか。

課長 実施していない。移住施策の優先順位が決まるのでヒアリングの機会を設けたい。

町オフィシャルサイトの改善は

問 多すぎるページ階層を改善できないか。

課長 重複表示等は見直していく。トップページに新着情報等を記載する改修を今年度予定している。

問 町の魅力が伝わるサイトになっているか。

課長 サイト以外にも、LINEやX、動画による情報配信手段を活用し、町の魅力配信に努めていく。

樋口 博美
議員



町民へ移動手段の意向調査を

課長

必要に応じた意向調査を実施する

移動手段の整備は

問 現状をどう考えているか。

課長 川島線、飯沼線、デマンド型乗り合いタクシーの現状はベター。課題もあるので適切な対応策を講じる。

問 住み続けられる町に必要な交通手段とは。免許返納後、また通勤通学の移動手段は。

課長 高齢者のみならず学生においても利便性の高い交通サービスの充実に向け、問題意識を地域と共有しニーズに応える公共交通の整備は重要。

問 新しい移動手段の検討の可能性は。

町長 現在の財政状況や運営体制、利用者のニーズを総合的に考慮すると、改善策の実施には時間がかかる。住み続けられるまちづくりには公共交通だけでなく生活環境の整備、子育て支援や高齢者支援、医療・福祉サービスの充実など多角的な取り組みが求められ、総合的な施策を展開する。

マツクイムシ対策は

問 被害市町村への移行時期は。

町長 令和8年度に指定を受けるには、今年度11月までに実施計画を出す事になっている。この実施計画に基づき広く町全体に目を向けた防除対策を実施していく。

問 町民への啓発はどう考えているのか。

課長 広報たつの9月号で特集を組むことを検討していく。アカマツの薪を移動する場合の時期や、薪の早期使用なども注意喚起していく。

問 マツノマダラカミキリの捕獲について、親子で昆虫採集をしたらどうか。またその際、捕獲懸賞金を出すことは。

課長 捕獲懸賞金が予算措置されていないので困難。関係団体との調整も困難で、実施は出来ない。



10年後住み続けられるまちの姿は

町長 地域の持続可能な発展と住民の生活の質の向上が大切。インフラ整備、施設の更新や維持管理、産業振興や経済の安定、子育て支援、高齢者福祉、病院の経営健全化など総合的に推進する。

津谷 彰
議員



町独自の物価高騰対策の推進は

町長

総合的な判断をして、効果的に実施する

問 全町民に商品券の配布をする考えは。

町長 商品券事業については、過去の事業規模から今回は見合わせる。

RSウイルス感染症予防の推進は

問 RSウイルス感染症の重症化リスクはインフルエンザと同等またはそれ以上。特に肺炎を引き起こすリスクが高い。予防促進のため、啓発活動は必要と考えるが。

課長 町のホームページにRSウイルス感染症についての掲載を開始する。ホームページでは、RSウイルスの感染経路や症状、予防方法などを掲載。主な症状、対処法を知り、予防する方法を知る場として活用してほしい。今後も情報提供や注意喚起を行っていく方針。

高校生や若者の居場所「ユースセンター」設置は

問 高校生や若者の居場所に関するニーズの把握は。

課長 辰野高校地域探究コースによるSDGs講座レポートにおいて、電車の待ち時間を過ごし、勉強する場所を高校生の居場所として作ってほしいという意見があった。辰野高校に限らず、地元から町外の高校などに通う地元出身者のニーズもあわせて把握する必要がある。

問 ユースセンターは、家庭や学校とは異なる第3の居場所として、若者が安心して過ごせる空間を提供する施設である。当町に設置する考えは。

町長 コロナ禍以降の若者の状況を踏まえ、ユースセンターの役割の重要性を認識し、県内の設置自治体や周辺市町村の動きを注視しながら、設置の可能性を含め、研究を重ねる。



茅野市にある若者の居場所

辰野町コンパクトシティ計画の推進は

課長 人口減少、少子高齢化を見据え、地域交通と連携したコンパクトなネットワークの実現を目的とした立地適正化計画の策定が必要であると認識する。

福祉教育常任委員会

福祉教育常任委員会は、去る4月2日水曜日、辰野町長に子どもの権利を守るための条例制定を求める提言書の提出をおこないました。

今、子どもを取り巻く環境は、経済格差による貧困、ヤングケアラー、障がいを持つ子どもたちや外国にルーツをもつ子どもたちへの対応など全ての子どもたちが伸び伸びと育つには厳しい状況があります。

辰野町においても、少子化の進行、人口減少に歯止めがかかっていない現状です。令和6年の出生者数は71人と過去最少でした。

子どもたちが安心して暮らし、学び、成長できる環境を保障する、明るい未来が想像できる、子育て施策(条例)が必要との考えから福祉教育常任委員会では、辰野町こども計画の策定に合わせて「こどもの権利を守るための条例」の制定を求め提言しました。

提言書は次の8項目を大きな柱とし、

1. 前文として、辰野町独自の子どもの権利を守る意義と必要性を盛り込むこと
2. 条例策定の目的
3. 定義・基本理念



4. 子どもの権利
5. 大人の責務
6. 町の責務
7. 実施体制
8. ほか、権利を保障することに必要な条文を添えること

なお、策定に関しては、多くの子どもの声を聞く中で進めることを要望しました。

総務産業常任委員会

総務産業常任委員会は、去る4月18日金曜日、辰野町長に豊かな森林づくりへ向けた提言書の提出をおこないました。

辰野町の面積の87%を占める重要な森林が、林業の担い手不足、木材需要の低迷、松くい虫の被害といった多くの課題に直面していることから、当委員会はこれまで、先進地や長野県総合林業センターでの視察研修、外部講師を招いての研修会などを通じ、町の林務行政に関する調査研究を重ねてきました。

提言書は次の4項目を大きな柱とし、

1. 林業の振興: 若い担い手を育て、公共施設や住宅に地元の木材を積極的に利用し、需要を拡大する。
2. 森林の保全: 間伐などを適切に行い、災害に強い森林をつくるとともに、松くい虫対策を強化する。
3. 地域との連携: 住民、特に子どもたちへの森林教育を進め、関心を高める。
4. 関係機関との連携: 大学や森林組合と協力し、専門的な知見を活かした森林管理を行う。

本提言の実現に向けて、計画の策定、予算の確保、行政体制の強化などを強く求める内容となっています。

「未来につなぐ辰野町の森ビジョン」が絵に描いた餅で終わることなく、町全体で実行し、豊かな自然を次世代へ引き継いでいくことを期待します。



／ ここには「何もない」があります ／

東京生まれの東京育ち。友人の紹介で辰野町を知り、自然環境に惹かれて移住を決意。人が良くて、お祭りも楽しい。居心地が良いです。移住前に考えていたよりも不便ではありませんでした。塩尻・岡谷・伊那各方面にアクセスしやすいです。気持ち次第で自然の恵みはなんでも手に入ります。心に余白ができクリエイティブになれます。都市部でできることは都市部でやれば良い。ここはここであることが素晴らしい。



長谷 ユミさん

／ 議員が町に出て聞きました ／

／ 自然の中でのびのびと暮らせる ／

移住した友人を介して辰野を知りました。「最後の新入生として娘を川島小に通わせたい」と思ったことが移住の決め手。季節の移ろいや地域の温かさに包まれ、自然の中でのびのびと暮らせる日々幸せを感じています。地域の皆さんの若々しさと、素敵な笑顔が輝く町です。伸び伸びと自然の中で子育てしたい方には、最高の環境です。



杉本 恵里さん



町民の声

テーマ

辰野町に移住してみてもうですか？



上島 友美さん

／ ピッカリ踊りで聞きました ／



杉本 明さん

／ 信州辰野は日本列島ど真ん中 ／

夫婦共に親の実家がある馴染みの辰野町に、夫の親との同居を機に5年前に移住しました。とにかく人が良い町です。「寺子屋シアター連」でピッカリ踊りに初めて参加、雨でしたが楽しかったです。辰野はど真ん中、どこへも行きやすく、住みやすい。9月公演の住民参加型創作劇「天翔る蛍」に参加します。

／ 地元のサポートに支えられ ／

松本で賃貸住まいでしたが、以前から知っていた辰野町に条件の合う中古物件が見つかり家族で引越してきました。温かい人に恵まれ、職場へも通いやすく、楽しく過ごしています。地元の役も周囲のサポートでこなせています。雨模様のピッカリ踊りに雲助で参加し、楽しかったです。10月の矢彦神社例大祭にも雲助で大暴れます。

9月定例会のご案内

開	会	9月 1日(月)
一般質問		9月 8日(月)・ 9日(火)
委員会審査		9月10日(水)・11日(木)・12日(金)
閉	会	9月18日(木)

※確定した日程は議会ホームページ等でご確認ください。

辰野町議会
YouTube

一般質問は役場町民ホールとYouTubeの生配信で傍聴できます。

編集後記

ページを開いたら「なんだ表紙が変わっただけか」と言われないように、町政の動きを少しでも解りやすく町民の皆さんに伝えてまいります。いま町ではどんな事が行われ、予算は何に使われているか。それに対して議会はどんな動きをしているか。厳しい目線で監視してください。町政や議会に関心を持ち、どんどん声を上げてください。皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

広報編集委員 栗林 俊彦

【お詫びと訂正】 議会だより第97号の3ページの「農業委員会委員7名(任期4年)」とあるのは「農業委員会委員7名(任期3年)」の誤りでした。ご迷惑をおかけしました関係者、町民の皆様にご心よりお詫び申し上げます。